

タイトル	カップとソーサの制作（使い手を想定して創ろう！）						
学校名	千葉県立	幕張総合	高等学校	美術・ <u>工芸</u>	氏名	平野 信子	
教材費	500円～1000円程度（釉薬の種類や絵付け等で幅有）			実施時間数	14時間（鑑賞1）		

1. ねらい

カップとソーサの制作に関心を持ち、社会的な視点に立って使う人や場などに求められる機能を考え、意図に応じて創意工夫し作品を制作すると共に、他の生徒の作品から作者の意図と表現の工夫を感じ取り、生活や社会を豊かにする工芸の働きについて理解を深める。又、陶芸の基礎知識を学ぶと共に、制作方法や技法・工程などについて理解を深める。

2. 材料

二面図用方眼紙、半磁土、陶土（信楽並 or 信楽特漉し・白）、
陶芸用成形用具（カンナ、ヘラ、切り針、弓、なめし皮、切り糸 等）手廻し轆轤、アクリル板

3. 展開 (時間)

(1) 導入 (1時間)

①陶芸について

・主な成形方法と工程について学ぶ。

(2) 構想 (2時間)

①アイデアスケッチをする。

・使う目的や人、場面などを考えながらスケッチをする。

・設計図（二面図 or 三面図）を作成する。

(3) 制作 合計11時間

①土練りを行う。 (1時間)

・半磁土と信楽特漉きの2種類の粘土を1対2か1対3の割合で混ぜる。

・土練には、荒練りと菊練りがある事を知り、練り方の違いを学ぶ。

②成形 (6時間)

・紐作り・手びねり・たたら板づくり等の技法を用いてカップの本体とソーサを制作する。

・取っ手の制作をする。

③削り・接合

・高台は底が繋がっているようにカンナを使い、削り出す。

・取っ手などを取り付ける。

※接合する時は、接合部分に傷を付け、ドベを塗り、細い粘土で補強する。

④加飾

・生乾きの状態の時に彫り模様やスタンプ等の加飾を施す。

⑤乾燥させる

⑥窯詰め・素焼き（※授業時間以外で実施・放課後等）

⑦下絵付け・釉掛け (2時間)

⑧窯詰め・本焼き（※授業時間以外で実施・放課後等）

(4) 鑑賞 (1時間)

2時間

4. 指導上の留意点

導入：陶芸についての基本的な知識を学ばせる。（焼き物の分類や成形方法や工程等）

：カップやソーサを使う目的や使う人、使う場面等をワークシートに書き出させ考えさせる。

構想：社会的な視点に立ち、使う人や場などに求められる機能を考え、意図に応じて創意工夫するように促す。（取っ手の持ち易さやカップとソーサの関係等を考慮した構想を練らせる。）

図法の学習を基に正確な二面図（三面図）を作成させる。

制作：陶土の特性を学び、制作するものに最適な技法と効率の良い手順を考えながら制作させる。
磁土と陶土を練り合わせる事により、白色度が増し、表面に彫り模様を施しやすくなる事を利用したデザイン・加飾方法を考えさせる。
削りや接合のタイミング（生乾きの状態）を理解し、効率良く制作を進めさせる。
乾かしながら（養生させながら）の作品制作となる為、適度な乾燥状態を保つ工夫をさせる。
制作⇒乾燥⇒素焼き⇒施釉⇒本焼きの工程で約2割縮むことを考慮した作品制作をさせる。
発想・構想・制作の一連の過程を通して、計画したものを制作する事の大切さを学ばせる。
制作工程に応じた、道具の使い方について学ばせる。

鑑賞：完成した他の生徒作品を見ながら、作者の意図と表現の工夫を感じ取ると共に、自己の作品についても評価する。
：社会的な視点に立って使う人や場などに求められる機能を考え、意図に応じて創意工夫し作品を制作しているかという観点に立ち鑑賞をさせる。
：生活や社会を豊かにする工芸の働きについて理解を深めているかどうか考えさせる。

※設計図と完成作品

